

II 特別シリーズII

科学技術  
振興機構 『さくらサイエンスプラン』友情と感激

第169回

香川大学の活動報告



金田義行  
(香川大学四国危機管理  
教育・研究・地域連携推  
進機構地域強化研究  
センター長)

レジリエンス・サイエンスリ  
ダー養成を目指した手法と対策

【本事業の趣旨】

香川大学は、2018年10月9日から18日までインドネシアのバンドン工科大学、ネパールのトリブバン大学、台湾の国立中正大学から学生、研究者、教員合計15人を招き、さくらサイエンスプランの支援でレジリエンス・サイエンスリーダー養成を目指したりリス評価手法と減災対策を学ぶ研修を実施いたしました。

本交流の趣旨は、想定外の事態に対して地域社会の継続を目標に、危機を分析・評価し適切にマネジメント(計画・実践)できる高度な対応能力を有する人材(レジリエンスサイエンスリーダー)の養成を目的としたものです。



ウェルカムパーティーの一幕



避難訓練3Dシミュレーター体験

シミュレーション研究や地震津波観測監視システムである海底観測網に関する講義、ローテク・ハイテク防災対策技術実習、危機管理学習講義、地質分析実習、学生交流等を行いました。インドネシア、ネパール、台湾も日本と同様に地震・津波のリスクが高く、インドネシアでは来日直前に甚大な津波災害が発生しました。研修生は、日本に

レジリエンス・サイエンス(減災科学)とは、地震や津波等の被害の原因事象ではなく、被害による機能停止といった結果事象に目を向けるための新しい学術分野です。研修では、最新の知見に基づく地震・津波

プログラム	
1日目	入国、移動、オリエンテーション
2日目	防災教訓の継承を目的とした普及施設の見学(人と防災未来センター 神戸) 高松市へ移動/レセプション
3日目	レジリエンスサイエンス(全体のスコープ設定) 地盤環境コースガイダンス、GISによる地形解析/レジリエンスサイエンス講義
4日目	GISによる地形解析 (DEMを活用した中央構造線沿いの斜面の解析/地震・津波シミュレーション研修)
5日目	GISによる地形解析 (DEMを活用した中央構造線沿いの斜面の解析/リスクマネジメント研修)
6日目	香川大学の学生防災士との研究交流 地形観光/徳島県の中央構造線の現地調査
7日目	文化体験 土質試験研修/防災教育研修
8日目	土質試験研修/VR災害状況再現対応能力向上訓練システム体験研修 成果のとりまとめ、発表会 神戸市三宮へ移動(高速バス)
9日目	災害教訓継承施設・防災教育(兵庫県立大学) 兵庫県庁災害対策本部室 研修(兵庫県庁)
10日目	出国



中央構造線のジオハザードに関する現地研修



徳田インターナショナルオフィス長/副学長表敬訪問



日本の食事(回転寿司)を堪能

今後、さらに双方の交流を深め、アジア圏におけるレジリエンス・サイエンスリーダー養成を目指します。



防災教訓継承施設「人と防災未来センター」視察

①各国からプログラムに参加した学生ならびに引率者の皆さんが、日本の防災減災の取り組みを知り、自国における取組みへの応用について考えたこと。  
 ②お互いの国の防災減災の取組みを理解することで、「学び」と「気づき」の認識を新たにしたこと。  
 ③防災減災研究ならびに施策を推進するための人材育成に貢献できたこと。  
 などの大きな成果が挙げられます。

【今後の展開】

学生ならびに引率者の皆さんが帰国後、自国での防災減災について「足りない点」や「改善すべき点」を再点検する事で、防災減災研究・施策の推進が期待されます。さらに各国の皆さんとの人的ネットワークの構築により、今後の交流が加速されることが考えられます。

おける防災対策技術やソフト対策の取組みを学習するとともに、兵庫県庁災害対策センター、阪神淡路大震災の教訓継承施設を訪問、また中央構造線のジオハザードに関する現地研修を実施しました。  
 今回は3カ国からの招へいだったこともあり、空港への送迎やプログラムの編成には工夫が必要でしたが、日本、インドネシア、ネパール、台湾といった災害多発国の若きリーダーが短期間でも交流できたことは、今後の国際連携への発展を考えると大変意義のある研修となりました。

実施後のアンケートでは参加者から、時事にあつたテーマで防災に関するロケテから最先端研究を学ぶことができ、大変有意義だったこと、リスクマネジメント、災害軽減アプローチ、技術、ネットワーク、あらゆる面

【プログラムの成果】

での新しい視点を発見したことへの喜びや、帰国後の自国での応用の検討、多数国の参加による意見交換の意義、プログラムへ参加できたことへの感謝など、興奮の冷めない感想を得ました。  
 参加者全員が体調を崩すこともなく、無事に所定の研修を終えることができました。帰国後もSNSを通じてコミュニケーションを取っており、国は離れていますが心理的な距離感はぐっと近くなり、将来の展開が大変楽しみとなりました。

プログラム成果としては、